

子どもの学習を深化させる聴き合いの力

～学びを「対話的」に変える授業づくりを目指して～

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

藤原 穂香

本研究は、学習指導要領が掲げる対話的な学びの形式化を課題とし、他者の思考を深く受け止め合う聴き合いの具現化を目的とした。実習での葛藤を起点に、佐藤学の理論や石井順治の実践を基に、課題設定、ツールの活用、教師の構えの三本柱による授業を構成した。

具体的には、児童の迷いを誘発する課題、思考を可視化するワークシートや問い返しを促す吹き出しカードを設計した。小学校第6学年での実践を通じて、児童の変容が結果の照合からプロセスの受容、自己認識の深化へと段階的に進展することが確認された。これにより、教師の見取りや待つ姿勢を具体的な授業の仕組みへ整理し直すことができた。

一方で、個の探究が不十分な際の支援や、日常的な問いをいかに全体へ繋ぐかが今後の課題として残った。今後は、子どもの微細な思考の変化を捉える見取りの眼を養い、沈黙の中にある声を学びの対象とする具体的な手法をさらに模索していく。